

高知工科大学 経済・マネジメント学群

1230509 長谷川 佑

指導教員 肥前 洋一

高知県のスポーツツーリズムにおける経済効果

～四万十市ソフトボール男子アジアカップを例として～

研究背景

高知県のスポーツにおける経済効果を算出する上で、先行研究がある龍馬マラソン以外のスポーツ大会を例に挙げて算出することが高知県のスポーツツーリズムの促進のために重要であると考えられる。

研究目的

龍馬マラソンは高知県のスポーツイベントのなかでもトップレベルの知名度があり、与える経済効果も大きく、県も力を入れている。他の大会がどのくらい経済効果を生み出しているかがわかると、県も支援の幅が広がり、高知県のスポーツ産業、スポーツツーリズムも促進され、自然を生かした産業の発展やスポーツ産業に有意義であると考えられる。

研究方法

高知県産業連関表の 2017 年度県経済波及効果簡易ツールを使用し、日本ソフトボール協会から提供していただいた大会収支決算書の数値を入力し、経済効果を算出する。分析 1 では本大会の経済効果を算出する。この大会が与える経済効果が大きいのか、小さいのかを比較するために、同じ人数が同じ日数観光に来た場合、産業連関表をもとにシュミレーションし、算出する(分析 2)。次に今回の大会で費用の割合を多く占めていた部門の自給率が上がった場合もシュミレーションしていく(分析 3)。

分析結果

分析 1 から今大会の経済効果は 5198 万 6343 円と算出することができた。この金額は、高知龍馬マラソンの約 1/4、卓球の高知県トリム大会の約 5 倍、高知県黒潮町の年間スポーツツーリズム消費額の約 2.2 倍である。

また、分析 2 より、今大会の経済効果は、スポーツに関係なく通常の観光として高知県を訪れた場合の約 1.3 倍となり、スポーツイベントの経済効果の大きさがわかった。さらに、分析 3 より、イベント委託の県内自給率が 100%になると経済効果が約 400 万円も増加することがわかった。現実的に 100%にすることは難しいが、62.4%という数字は他府県に比べると低く、今後この自給率を上げることが、県外から参加者を集めて大会を開く際に経済効果を高くするための改善点であるということが分かった。

課題

課題として、他府県で行われた場合、どのような数値になるのかという点がある。高知県の県内自給率が全国的にみて低いとはいえ、一次産業の強みがあり、他府県に勝っている点もある。スポーツイベントを開催するにあたってどの都道府県が適しているのかを調査すべきであると考えられる。